

令和3年第9回庄原市教育委員会議
令和4年度使用中学校用教科用図書採択 議事録

- 1 日 時 令和3年8月20日(金) 午後1時40分から
午後2時10分
- 2 場 所 庄原市役所 本庁舎5階 第2委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 牧原 明人
教育委員 末信 丈夫、横山 和明、神本 久美、立花 有佐
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部長 片山 祐子
教育部教育総務課長 亀山 慎也
教育部教育指導課長 東 直美
教育部生涯学習課長 今西 隆行
教育部教育総務課総務係長 森田 一徳
教育部教育指導課学事係長 高淵 直哉
教育部教育指導課指導係長 辻坊 健作

6 議事録

<p>教育長 委員（全員） 教育長 事務局</p>	<p>日程第5、議案第48号、令和4年度使用中学校教科用図書の採択について</p> <p>それでは、日程第5、議案第48号、「令和4年度使用中学校教科用図書の採択について」を議題とするが、議事録については、委員の氏名を載せて公表するがよいか。</p> <p>よい。</p> <p>それでは、事務局より議案の説明をお願いします。</p> <p>議案第48号、「令和4年度使用中学校教科用図書の採択について」である。本日は、中学校社会科歴史的分野の教科用図書について採択していただく。はじめに、採択までの流れについて説明する。採択に関する日程についてご覧いただきたい。</p> <p>まず、5月21日開催の教育委員会にて、採択基本方針を決定していただくとともに、選定委員会委員の委嘱について承認をいただいた。その後、6月28日に第1回選定委員会を開催し、調査研究の観点について協議決定していただいた。また、6月11日から30日まで教育指導課に教科書を展示し、意見箱を設置した。今回出された意見は別紙にまとめているので、後ほどご覧いただきたい。選定委員会の協議を受け、7月19日に調査委員会を開催した。調査員として教頭、教諭、事務局の職員3名で行った。この調査員会では、選定委員会から示された観点に基づき、自由社と昨年度採択した東京書籍の2者の調査を実施し、その結果を報告書としてまとめ、7月29日の第2回選定委員会において報告をした。その後、選定委員会は、この報告書を基に審議し、答申を作成、事務局へ提出した。本日は、選定委員会から提出された答申を基に、審議、採択をしていただく。</p> <p>調査研究答申をご覧いただきたい。</p> <p>選定委員会等で出された意見を踏まえ、教科書について説明をしていく。</p> <p>まず、観点1についてである。基礎・基本の定着については、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫において、文化遺産の示し方、神話伝承等に関する記載内容について比較をしている。2者とも資料に、世界遺産、国宝、重要文化財などを示すマークが付けられており、東京書籍は、巻頭の見開きに国宝、重要文化財などがまとめられている。また、特徴的な点として、自由社においては、神話を取り上げた授業内容について1時間設定されていることがある。これについては、自由社教科書の38ページにある。</p> <p>続いて観点2、主体的に学習に取り組む工夫については、課題の設定、整理分析、振り返りの工夫と視点、身近な地域の歴史で示している、調べる手順、方法、記載の仕方等について比較をしている。東京書籍においては、調べる手順、方法を示し、生徒が主体的に学習に取り組むような工夫をしている。例えば、東京書籍の教科書14ページにおいて、1. テーマの設定、2. 調査、3. 考察、4. まとめ発表、5. 振り返りという一連の手順を示している。自由社においては、大阪府の堺市が例として挙げられているが、4つの班に分かれて調査を行った内容をまとめの文章として掲載している。これについては、自由社の教科書12ページから15ページにおいて、A班、B班、C班で視点を決め、調査研究をしようという形の学習の深め方となっている。</p>
---------------------------------------	---

	<p>続いて、観点3、内容の構成、配列、分量については、2者に大差はない。</p> <p>観点4、内容の表現、表記については、絵図、写真等の活用について比較をしている。近代の日本に関する資料における調査研究をしている。資料の種類、掲載数にかかる特徴として、自由社では、文書資料が58あり、写真や絵図と比較しても文書資料の数が多いという特徴がある。東京書籍は、文書資料は44で、写真、絵図、図表、グラフ等の資料がバランス良く掲載されている。</p> <p>続いて、観点5、言語活動の充実については、目的に応じて適切に表現するための力を育てる工夫として、各章末における時代の特色をまとめる学習の具体例について比較をしている。東京書籍は、60ページにあるように、思考ツールを活用して考えを深めさせ、時代の特色を文章にまとめるという方法を掲載している。各時代の章末に示してあり、ここではくらげチャートが使用されているが、96ページではXチャートが使われ、思考を深める、まとめるというような様々な思考ツールを活用できるよう、各章末に示されている。このような思考ツールを使ったまとめ方のページが全部で6つある。また、自由社では、歴史用語を3文で説明する歴史用語ミニ辞典を作成するという方法で特色をまとめ、学習を進めている。例えば、67ページ、歴史用語ミニ辞典の作成として、さくらさんのノート、しょうた君のノートとして示されている。このようなページが各章末、時代ごとにある。少し特徴が違っている。</p> <p>以上のような特徴から総合所見として、身近な地域の歴史を調べる調べ学習では、学習のポイントや事例を掲載するとともに、調べる手順、方法についても分かりやすく示しており、生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がなされている。また、各時代の特色をまとめるために、思考ツールを示すなど、言語活動の充実を意識し、それを支える写真や絵図、グラフ等、多彩な資料がバランスよく掲載されている。以上の理由で総合的に判断し、東京書籍が最も適している。選定委員会からはこのような答申をいただいているところである。</p> <p>以上、説明をさせていただいた。審議をお願いしたい。</p>
教育長	事務局、並びに選定委員会からの意見も交えて説明をいただいたが、意見をお願いしたい。
末信委員	ユニバーサルデザインについて、東京書籍は写真や資料においてもユニバーサルデザインを意図したものか教えていただきたい。
事務局	東京書籍はユニバーサルデザインフォントを使っている。ただし、写真の鮮明さについては、自由社の方が鮮明に写っている。東京書籍の資料の示し方がユニバーサルデザインに基づいた示し方として、このような鮮明さになっているのかについては、調査がされていないため確かなことは分からない。
教育長	文字については、見やすいという配慮が東京書籍ではされているということか。
事務局	そうである。
教育長	他に意見はないか。
末信委員	教科書全体の状況についてであるが、自由社の方が、ぱっと開いて折り目の部分が楽に折ることができる。東京書籍の方は、開くことが少し難しい。しかし、東京書籍

<p>教育長 神本委員</p>	<p>の方は、用紙が薄く、しっかりしており、教科書の軽量化が意識されている。また、歴史を学ぶ意義、どのような観点で編集しているかについて、感じたことがある。自由社の方は、歴史を学ぶことは自分のこととして学びなさい、歴史から自分のこととして考える力をつけなさいという印象を受ける。それに対して東京書籍の方は、SDGsを意識しているのだと思うが、持続可能な社会の実現に向けて歴史を学んでいくという未来を創造していく力や見方をつけていこうという観点があり、どちらかというとは私は、東京書籍の方に意義を感じる。また、先ほどにもあったように、資料について、写真、地図、図表、グラフや人物についても、東京書籍の方がかなり多くバランスが取れている。文書資料については逆であったが、地図やグラフなど、資料が多いということは良いことだと思う。基本的には、選定委員会の所見は納得がいく。</p>
<p>教育長 立花委員</p>	<p>他にないか。 まず、言語活動の充実において、総合所見にもあるように、東京書籍の教科書246ページの思考ツールを示す等の内容がとても良いと思った。時代背景やターニングポイントなど、特に第一次世界大戦や第二次世界大戦など、分かりにくい所をこのような方法を通して学習を進めていくのは、歴史が苦手な子もよく分かっていくのではないかと非常に感心した。また、地図や絵に重きをおいて見たが、迷ったところでもあるが、地図に関して、自由社は、簡単に淡白にまとめている地図が多いと感じた。東京書籍の場合は、地図帳に載っているような地図を載せている。どちらの方が子供たちにとって良いのか悩んだ。個人的には東京書籍の方が良いと思ったが、地図を読むことが苦手な子にとって、自由社の地図の方が取り組みやすいのかとも思った。しかし、資料の絵や写真については、圧倒的に東京書籍の方がよいと感じた。そして、今現在、地理と歴史は並行して学習しているので、そのような点も踏まえると、同じ会社の教科書の方が良いのではないかと思った。</p>
<p>教育長 横山委員</p>	<p>他にどうか。 私も近代に関しては、子供たちが戦争の課題と利害の両面から捉え、考えていけるように、東京書籍の方は構成されていると感じた。大東亜戦争という記述が自由社の方にはあったが、これはどうなのかと感じた。東京書籍の方が、子供たちにとって、将来を見据えて、考えやすくされていると感じた。また、神話の取り扱い方が、自由社の方は、歴史の中で取り上げられているが、東京書籍では、神話を文学として取り扱っているため、その方が歴史の学習としては適当なのではないかと思った。そのような点から東京書籍の方が、子供たちにとって適すると思った。 その他どうか。 個人的な見解だが、大東亜戦争とはあくまで日本から見た戦争の捉え方である。戦勝国が太平洋戦争と言っている。これは、あくまで東京裁判などとも関わり、どうにもならない話である。視点がどこにあるのかという点が大きいと思う。また、神話については、今の大きな歴史の流れの中では、神話とはあくまで作り話であって、歴史的な史物では全くない、教えるべき価値はないといった流れを見直そうというものがあると考える。この国の昔の人たちが、このような物語を作り、そのような部分を全</p>

末信委員	<p>く知らず育ってしまうため、その部分に焦点を当てようとしているのだと思っている。一方で、先ほどにもあったように、昨年度、東京書籍を採択しており、地理の教科書も東京書籍を採択しているため、歴史だけ変えるのは現実的ではないと思う。</p> <p>内容について、歴史的にどうかはおいておくが、自由社の方は、文書資料が多く、興味深く感じた。それに対して東京書籍は、オーソドックスというのか、そのような印象を受けた。また、神話については、自由社は神話や天皇に焦点を当てていると感じた。東京書籍は、「もっと歴史」というところで神話を扱っている。東京書籍で良いと感じたのは、地域の歴史を調べようという中で、広島の復興と平和への思いというのがしっかり示されており、重要なことであると感じた。</p>
教育長 横山委員	<p>他にどうか。</p> <p>神話についてであるが、日本の教育において、歴史的な混沌とした部分について神話というのが非常にないがしろにされてきた。戦前の教育の見直しとして、神話を誰も学ばないというようになった。この辺りで言えば、神楽を習っている子供たちが昔の話を知っているというもので、そうでない子は何も知らない。私たちの先祖が遺産として残してきたもので、見るべきものがあるのかについて、糸口だけは教えるべきだと思う。歴史的な事実かについては、当然検証のしようがないもので、そうではなく、遺産であるから大事にすべきではないかと思う。</p>
末信委員	<p>庄原市においても、神話をもとに様々な取組をしていると思う。そのような意味でも大事なものであると思う。</p>
立花委員	<p>国語の教科書において、神話を取り上げている。教科横断的に神話のことは子供たちには伝わるようになっていく。</p>
教育長	<p>学習のまとめ方、単元のまとめ方に着目したとき、東京書籍のまとめ方が、子供たちが学ぶ意欲、あるいは自分の言葉でまとめる工夫がされている。先ほどの説明にもあったように、東京書籍の教科書 145 ページと、自由社の教科書の 147 ページを比較した際、東京書籍では、それぞれの時代について、ポイントとなるまとめを行い、そして全体的にどうかというように展開していくまとめ方が示されている。一方、自由社では、ヒントではなく、まとめた内容が提示されている。</p> <p>分かりやすいと言えばそうだが、自ら考えさせ、どこに着目し、時代をまとめていくかについては、東京書籍の方が良いのではないかと考える。自由社では、歴史用語ミニ辞典の作成を通して、言葉を使いながら示してあるものの、もうすでに文章ができていく。</p> <p>それでは、総合的に検討し、選定委員会でも提案されている、東京書籍の方が適しているということでしょうか。</p>
委員（全員） 教育長 事務局	<p>よろしい。</p> <p>それでは、東京書籍に決定する。</p> <p>熱心かつ慎重な審議に感謝する。採択結果については、採択理由とともに、近いうちにホームページにおいて公開する。また、県全体の採択結果については、9月上旬に県から公表をされる。それまでは守秘の配慮についてもよろしくお願ひしたい。</p>

